

1-9 学生生活への配慮

A 群・奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

本研究科は、学生の学業継続を支援するために各種の経済支援制度を設けている。第1は、学生の経済支援の一環として学生雇員を採用している。学生雇員は、教授の教員補佐をするTAの採用と合同研究室の学生雇員としての採用である。とくに、外国人留学生に対する経済的支援として、また寄附講座教員のTAとして3名及び合同研究室の雇員として2名を採用している。

第2に、奨学金制度として給付奨学金と貸与奨学金を設けている。給付奨学金は学業成績の最優秀学生に対して給付される奨学金であり、毎年2名の学生に対して給付している。給付額は年額300,000円である。一方、貸与奨学金には日本学生支援機構奨学金制度と青山学院万代奨学金制度がある。月額貸与額は日本学生支援機構が88,000円、万代奨学金が85,000円で、貸与年数はいずれも2年で、修了後の20年以内に分割返済するものである。2006年度では日本学生支援機構奨学金制度に7名、青山学院万代奨学金制度に1名が採用された。

第3に、2006年度私費外国人留学生29名に対しては、留学生の経済的負担を軽減する「私費留学生授業料減免制度」があり、授業料の30%相当額の減免措置を講じている。

C 群・学生に対し、研究プロジェクトへの参加を促すための配慮の適切性

本研究科は、学生に対し研究プロジェクトへの参加を促すために以下のようなプログラムを提供している。

- 1) 少人数の学生との集中的な研究セミナーの配置
- 2) 学術フロンティア・センター主催による研究会の開催

また、将来的にはグローバルアクションラーニング&リサーチプログラムを充実させて博士課程の教員と学生の共同研究体制を確立していく。

C 群・学生に対し、各種論文集及びその他の公的刊行物への執筆を促すための方途の適切性

本研究科は、学生に対し、各種論文集及びその他の刊行物への執筆を促すために以下のようなプログラムを提供している。

- 1) 学生の優秀な研究成果に対する「研究奨励賞」の授与
- 2) 研究成果の「青山マネジメント・レビュー」による公表

また、将来的には学生の研究発表の場をさらに充実させていく。

1. 国際マネジメント研究科

A 群・学生の進路選択に関わる指導の適切性

本研究科は、学生に対する就職指導として、2005年度より春学期5月にプレースメント・セッションを開設した。5月の毎週水曜日に10:00より17:00までの間を3セッションに分け、本研究科の施設で企業人事採用担当者と学生との個別面談の機会を設け、学生の就職活動をサポートしている。